

○

石松家・リビング（夜）  
石松杏花（14）座椅子に座って真剣

にゲームをしていて。ソファに座ってテ

レビを見ていて。品種改良された花の特集が

放送されていている。種改良された花の特集が

苑花

「ねえ、枯れない花だっ」

杏花

「綺麗ね。売ってるんだっ」

苑花

「（綺麗ね。売ってるんだっ）」

杏花

「（綺麗ね。売ってるんだっ）」

苑花

「買う？」「ムシながらうーん」

杏花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

杏花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

杏花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

苑花

「杏花、どう？」「ムシながらうーん」

杏花「消道」市川大吾「32」入って来て、黒板を  
 奈々「でも怒つて」も「う。やめてよ！」  
 杏花「廊下には急いで顔を上げ、廊下の方を見る。  
 杏花「奈々、あっ、机の中にノートを入れながら、  
 奈々「トを閉じ、方程式の式だけが書かれたノ  
 杏花「眠いつて、寝てたじゃん」  
 奈々「は、眠い」  
 〇 同・2年4組教室の中央で隣同士の席。  
 黒板には、連立方程式の計算式が書かれ  
 杏花「と奈々、急いで荷物を持ち、走って  
 奈々「チャイムが鳴る。」  
 奈々「本、本に咄に顔をあげ、  
 杏花「制服の横で替えながら、西谷奈々（14）、  
 制花の着替えている。カバンの中に運  
 動着を入れている。済ませ、  
 杏花「着替えている。済ませ、カバンの中に運

奈々「どうせ、何かのDVD見るんでしょ？」  
杏花「絶対、暇だよね。」  
奈々「市川、黒板に『美しいもの』と書く。」

○ 同・陸上部更衣室（夕方）

杏花「結んでいる。一人で椅子に座り、靴紐を結んで荷物を持って入って来る。杏花「花、奈々の靴紐が入って来た瞬間に立ち上がって行く。片方の靴紐が結べていない状態で出て行く。奈々「咄に。」  
奈々「杏花！止まる。」  
杏花「大丈夫？」  
奈々「杏花、ドアの方を向いている。」

○ 同・2年4組（回想）

黒板「黒板には『富士山モデル自然音楽』と書かれていて、美しいものでは無いと  
市川「思っているか？」  
生徒「誰の手をあげない。」  
市川「思うもの、違う。他人の美しいと  
思えることも重要。と書かれ、蛍光ペンで  
印が書かれていて、反対の意見があれば言っても  
市川「みんな、反対の意見があれば言っても  
奈々「杏花の方を向いて、  
杏花「（口パクで）ひまわりも。」

市川「一枚取り、開いて、折り畳まれた紙を  
黒板に貼らない花』と書く。」

市川 「じゃあれ、枯れない花が美しいものでは無？」

市川 「おっ、驚いた顔をしている。枯れない花は美

市川 「枯れないから？」

市川 「教室の全員、枯れないと美しく無いんだ？」

市川 「いいいぞ。実は、先生も枯れない花は美

市川 「花、枯れない花は美しく無いと思う？」

生徒 「死なないもの、美しくないもの、死なないと思

生徒 「死なないもの、美しくないもの、死なないと思

市川 「おっ、下を向く。立派な意見だろ？」

市川 「おっ、下を向く。立派な意見だろ？」

○ 同・陸上部更衣室（夕方）

市川 「おっ、下を向く。立派な意見だろ？」

市川 「おっ、下を向く。立派な意見だろ？」

市川 「おっ、下を向く。立派な意見だろ？」